

教育目標	
遊びを楽しみ、心豊かにたくましく生きる子どもの育成	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和6年9月26日	京極幼稚園学校運営協議会
最終評価		

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none">・クラス、異年齢、未就園児、保幼小など、様々な子どもとの関わりの中で、具体的な子どもの姿を記録し、『自分らしさを発揮して前向きに取り組む子どもの育成』をめざし、『「やってみよう」という意欲を育てる環境や援助』に着目して、教員同士での日々の反省評価から、具体的なよりよい保育の手立てを考える。・幼児が主体的に夢中になって遊びこめる生活や活動、行事について検討、実践をし、次の取組につなげる。
（取組結果を検証する）各種指標
<ul style="list-style-type: none">・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿の変容を見取る。・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る。・アンケート

中間評価

各種指標結果
<ul style="list-style-type: none">・週案の反省やエピソードの検討を通して、園内研修等で子どもの姿の変容について話し合った。・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容について協議を行った。

<p>・アンケート項目（大変そう思う A、そう思う B、あまり思わない C、思わない D）</p> <p>① 子どもは、幼稚園に親しみを感じ、安心して過ごしている。A81.3%B18.7%C0%D0%</p> <p>② 子どもは、幼稚園での遊びを楽しみ、自らやってみようとしている。A81.3%B18.7%C0%D0%</p> <p>③ 子どもは、先生や友達とかかわる中で、嬉しさや悲しさ、悔しさなど、様々な感情を味わっている。A75%B25%C0%D0%</p> <p>④ 子どもは、自分の思いを話したり、友達の思いを聞こうとしたりしている。A50%B50%C0%D0%</p> <p>⑤ 子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる。A81.3%B18.7%C0%D0%</p> <p>⑥ 子どもは、手洗いやうがいなどの生活習慣、身の回りの始末を自分でしようとしている。A50%B50%C0%D0%</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>エピソードや研究保育を通して、子どもの姿の変容を見取り、子どもが意欲的に取り組むための環境や援助の在り方について学び合うことができた。</p> <p>アンケートにおいては、すべての項目についてすべて A・B 評価であった。特に、子どもの安心感、意欲、自然とのかかわりについての項目では、8 割以上が A 評価であり、幼稚園の取組、子どもたちの育ちについての理解がなされていることが伺える。自由記述においても、園での教育活動にご理解・ご協力をいただいている表記が多く見られた。友達関係においては、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じている一方、更にかかわりの深まることを望んでいるのではないかと推測される。</p> <p>生活習慣においては、他の項目に比べて B 評価が多く見られる。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>例年、アンケートの数字や自由記述でも高評価を得ているが、今後も、個々の子ども・保護者と丁寧にかかわっていくことが大切である。子どもたちは、自分たちで遊び始める姿が見られるようになり、その中で友達と思いがぶつかる姿も増えてきている。その姿を成長のステップと捉え、子どもの思いに寄り添い、様々な感情体験ができるよう援助していく。</p> <p>生活習慣においては、日々の保育での個別の援助や保健指導などを通して、子どもが必要感をもって取り組めるようにすると共に、家庭と園とで連携しながら共に支えていく。</p>
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿の変容を見取る。 ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る。 ・アンケート
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数の園を生かして、子どもたちが手厚くサポートされているように思う。小規模園であることの良さもあった。 ・幼稚園のカリキュラムについて、またその問題点や解決策などについても知りたいと思う。（例えば、昔より子どもの体力が落ちてきているなどの話を聞くが、園ではどのように工夫しているのかなど） ・子どもたちがとても楽しそうに過ごしている。また、先生方がめあてをもって保育していることも伝わり、とても良いと思う。 ・良い生活習慣（例えば歯磨きなど）は、4 歳児の時の取組から更に継続して行っていくと良いと思う。

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(2) 架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保幼小で、交流についての年間計画やチーム分けを検討、作成する。交流前後の打合せ時には、子ども同士の思い、子どもの姿の読み取りやねらいなどについての共通理解を大切にする。(京極小学校・鶴山保育所) また、交流保育の在り方を考えながら、保幼小の交流保育を進める。(室町小学校) ・ 互いの保育や授業を参観する機会や研究の資料等の共有により、接続に必要な環境や援助を整理し、架け橋期のカリキュラムの検証及び修正を行う。(京極小学校)
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間交流計画の作成や京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流。作品展交流や授業参観、懇談会、合同研修会の実施回数。 ・ 小学校と連携して行う架け橋期のカリキュラムの検証及び修正の状況。 ・ 就学前の情報交換 (支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継)。 ・ アンケート

中間評価

各種指標結果
<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間交流計画を作成済。 ・ 小学校 (京極・室町等)、鶴山保育所との保育、授業を通しての交流 4 回とその事前・事後研修実施、授業参観 4 回実施、保育参観 3 回来園、合同研修会 2 回実施。 ・ 京極小学校と連携し、架け橋期のカリキュラムの検証・修正中。 ・ 就学前の情報交換 (支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継) は後期実施予定。 ・ アンケート項目 (大変そう思う A、そう思う B、あまり思わない C、思わない D) <p>⑨幼稚園は保育所・小学校・中学校とのつながりを大切にしている。A62.5%B37.5%C0%D0%</p>
自己評価
<p>分析 (成果と課題)</p> <p>交流保育については、年間計画の作成から事前・事後研修の実施も含めて、忙しい時間の中でもしっかりと実施することができており、互いの授業・保育の参観やその後の協議など、積極的に実施している。また、架け橋期のカリキュラムについても、昨年度作成したカリキュラムの年間を通しての見直しを実施中である。</p> <p>アンケート結果でもおおむね良好である。</p>

	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <p>交流保育及び小学校との連携については、大変充実した取組ができていると思うので、後期も続けていきたい。京極幼稚園での架け橋期の教育に向けての取組については、保護者に対して更に積極的に発信していきたいことであるので、降園時に担任から意識的に伝えるようにしたり、ホームページ等でも発信を続けたりしていく。</p>
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・京極、室町等の小学校との保育、授業を通しての交流。作品展交流や授業参観、懇談会、合同研修会の実施回数。 ・小学校と連携し、架け橋期のカリキュラムの検証・修正状況。 ・就学前の情報交換（支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継）。 ・アンケート
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後の研修をした上での交流保育であることが素晴らしいと思う。 ・保幼小の連携が歴史的に長く行われていることがこの地域の素晴らしい特色であると思う。今後も、このつながりを大事にしながら、互いに向上していけるようにと願っている。 ・京極小学校との交流が盛んであるが、同じように室町小学校との交流の実施も回数が増えると良いと思う。室町小学校区からの入園も増えるのではないかと。 ・自分が進学する学校でなくても、小学校との交流で親しみを感じたり学校での生活を体験したり（例えば給食交流やプール交流など）することができれば、安心感につながると思う。 ・1年生の保護者対象で給食試食会が実施されたが、年長児の保護者も入園前に小学校の試食会に参加できると、給食に対しての安心感が増すのではないかとと思う。また、年長児に対する給食交流会があれば、実際に入学する学校でなくても、給食とはどういうものかを知ることができ、安心感につながると思う。

最終評価

<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div>

(3) 預かり保育に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもが安心して参加できるように、教員同士の情報共有を確実にし、必要に応じて教職員全体で子どもの安全を確保しながら見守るようにする。
--

<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢、少人数だからこそできる活動や、語学ボランティアによる読み聞かせや、講師によるサッカー体験やつくって遊ぶ活動など、特別プログラムも計画する。 ・保護者のニーズに沿いつつ、子どもにとってよりよい関わりを共に考えていく。 ・早朝預かりから 18 時までの長時間保育の在り方について考える。
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返り、計画の修正（未就園 3 歳児の預かり保育を念頭において）。 ・預かり保育の参加人数。 ・アンケート

中間評価

自己評価	<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返りの実施継続中。 ・預かり保育の参加のべ人数（4 月 83 名 5 月 102 名 6 月 134 名 7 月 151 名 8 月 71 名 9 月 151 名） ・アンケート項目（大変そう思う A、そう思う B、あまり思わない C、思わない D）利用者のみ回答 <p>⑦ 子どもは、おひさま広場（預かり保育）を楽しんでいる。A60%B40%C0%D0%</p>
	<div>分析（成果と課題）</div> <p>昨年度に比べ各月とも利用率が増加しており、今年度は朝の預かり保育も継続して利用が続いている。4 歳児の利用が多く、3 歳児も数回ではあるが、4 月からの利用が始まった。17 時以降の利用者が特定されており、1 名だけになることが多い。</p>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <p>預かり保育は利用率も多く、楽しんで参加している様子が見られる。3 歳児から利用できるようになったことで、カリキュラムの見直し、修正を行った。</p> <p>17 時以降に残る子どもが特定されていることで、日によって、寂しく思う姿が見られる。子どもの思いに寄り添い受け止めながら、子どもが興味をもって取り組める活動や環境を工夫し、少しでも安心して楽しめるような取組を考えていく。</p>
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返り、計画の修正。 ・預かり保育の参加人数。 ・アンケート
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントや個別の活動をうまく活用していると思う。 ・教育時間の前後に預かり保育をしているという現状は、いろいろと難しい面もあり大変だとは思いますが、解決策となるとこれと言って中々あげられないことがもどかしい。 ・長時間預かり保育は、入園につながる大きな要素であると思われるので、継続していくことを期待している。 ・まだまだ、幼稚園で早朝預かり保育や 18 時までの預かり保育を実施していることを知らない子育て世代も多い。保育所でなければ…という発想になりやすいので、やはり、アピールしていくことが大切であると感じる。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・ 0～3歳の未就園の親子のクラス（ひよこ組）、2歳児親子（ぷちうさぎ組）が3歳児クラスの子どもや在園児と関わって遊ぶ機会を定期的にもつ。 ・ 未就園3歳児の預かり保育を安全にかつ安心して利用できる計画を作成する。 ・ 在園児の行事等に参加したり、在園児保護者との交流で子育てなどについて話したりする機会をもち、園の保育の雰囲気や良さを感じてもらえるようにする。 ・ 取組の様子をホームページ、チラシ、広報誌等でアピールしたり、小規模保育施設に働きかけたりすることで、より多くの親子に参加してもらえるようにし、入園者増加につなげる。
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・ ほっこり子育てひろば実施時の保護者の思いや意見。 ・ 園庭開放や未就園児保育の利用者（登録者）数。 ・ 未就園3歳児の預かり保育利用人数。

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none">・ほっこり子育てひろば回1実施。・未就園児保育の利用者（登録者）数。 3歳児うさぎ組3名、2歳児ぷちうさぎ組8名、0～3歳児ひよこ組14名（ぷちうさぎ組8名含む）・未就園3歳児の預かり保育参加のべ人数（4月4名5月11名6月14名7月17名8月7名9月15名）	
自己評価	分析（成果と課題）
	<p>今年度も、うさぎ組は欠席もほとんどなく、安定して通園している。預かり保育も、子どもの様子を見ながら利用していて、在園児の預かり保育時間までの弁当時など、3歳児の担当者が継続して預かり保育を受け持つことで安心して過ごしており、兄弟で降園時刻を合わせて利用している様子が見られる。</p> <p>ぷちうさぎ組は、昨年度より多い7名の登録があるが、ひよこ組の登録者は昨年度よりも更に減少している。</p>
	分析を踏まえた取組の改善
<p>0～3歳児のひよこ組の登録者は少ない状況であるため、広く周知できるようInstagram</p>	

	<p>やホームページ等を活用してきている。また、保護者の方の力を借りて、各施設やイベント時などに、広報活動を進めている。後期には、在園児の保護者や園長と未就園児の保護者がざくばらんに話せる機会をつくっていこうと企画している。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろば実施時の保護者の思いや意見。 ・園庭開放や未就園児保育の利用者（登録者）数。 ・未就園3歳児の預かり保育利用人数。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児の取組のポスターが大変見やすく良いと思う。(昨年度 PTA 作成のもの) ・Instagramを活用してがんばってきている成果が出ていると思う。Instagramは園での様子がとても伝わりやすいと思うので、より多くの方に見てもらえるよう、QRコードを大きく印刷したポスターがあるとアピールにつながる。 ・ホームページがきちんと表示されないことがある。子育て支援の取組を利用したい人などが、知りたいときにその情報を得られないのは良くないので、改善できたらと思う。 ・ポスターや案内の掲示など、PTAの方が協力的で幼稚園を盛り上げていこうとしている感じが感じられ、すごいなと思った。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の持ち方、組織の充実を目指し、地域の環境や人材の活用に努める。 ・教育内容、未就園児教育相談や預かり保育の取組などについて、地域へのチラシ配布やポスター掲示等の協力を依頼し、乳幼児親子が集う場への積極的なアプローチにも努める。 ・地域の高齢者施設や公園での集まりなどへの積極的な交流。 ・KKP での積極的な情報発信や共有に努め、地域の子どもたちのより良い育ちにつなげる。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を中心とした地域の声の聞き取り。 ・KKP（烏丸中・上京中ブロック保幼小中一貫教育）への参加回数及び教職員との情報共有の有無。 ・アンケート

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会での地域の声の聞き取りを実施。 ・KKP への参加打ち合わせ含めて4回。教職員との情報共有。小中学校との公開保育・授業、研究会などへの呼びかけ。 ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD） <p>⑧子どもは、近隣への遠足や、地域の方々との交流を通して、京極地域に親しみを感じている。 A43.8%B56.3%C0%D0%</p>	
自己評価	分析（成果と課題） <p>学校運営協議会は、6月に1回目を実施し、本園の運営方針や年間計画など周知し、理解を得ることができた。また、9月に行った2回目では、ほぼ全員の方に出席いただき、評価についてのご意見も積極的にいただくことができた。</p> <p>KKPの取組においても、「あいさつ運動」や互いの公開保育・授業への参加など、今年度も充実した取組を実施できている。9月に実施した本園の公開保育では、小学校（京極小・室町小・新町小・西陣中央小）及び鶴山保育所から多数参加してもらうことができ、保育後の協議会でも活発なご意見をいただいた。</p>
	分析を踏まえた取組の改善 <p>運営協議会は、幼稚園の現状についてご理解いただいた上で、毎回、多数のご意見をいただいている。今後も運動会等の行事や公開保育を通して、幼稚園での教育を発信していきたい。また、今年度は、公開保育についての案内をKKPの各校園（7校2園）に発信することができ、前年度より多くの方に参観・研究協議会への参加をしていただくことができた。今後も、各校園との連携を深めていきたい。</p>
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を中心とした地域の声の聞き取り。 ・KKPへの参加回数及び教職員との情報共有の有無。 ・アンケート
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中学校との交流は難しさがあると思う。中々かかわりが見えにくいので、今取り組んでいることを具体的に挙げていくと良い。 ・地域の全世帯に配布する広報誌『京極だより』に幼稚園の取組（未就園児向けの案内など）を毎月掲載すると、より京極幼稚園にことを地域の方に知ってもらえると思う。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

価	
---	--

（６）教職員の働き方改革について

重点目標
教職員が心身共に健康で、互いに学び合い、高め合い、相談し合える風通しの良い明るい職場環境づくりをめざし、自らの働き方に関する意識改革を進める。
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・出退勤管理システムによる客観的な記録をもとに、よりよい働き方や適切な勤務時間を意識し、問題点について考え、改善策を探る。 ・職員朝礼や職員会などの実施日を調整し、朝の準備や環境整備の時間を確保する。会議の精選、効率化を図る。 ・誰が見ても分かりやすいよう資料や物品の整理・配置について見直し、業務の充実と効率化を図る。 ・教職員に様々な勤務の形があり、全員が同じ時間帯にそろえることが難しいが、日頃から声を掛け合い、一人一人が欠かせない存在として認め合い、労い合い、尊重し合い、補い合うチームとしての意識を高め、業務にあたるようにする。
（取組結果を検証する）各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・会議や職員朝礼の実施状況。 ・教職員の勤務時間及び年休取得状況。

中間評価

各種指標結果
職員朝礼は、今年度より、週一回（火曜日のみ）の実施としたが、特に問題はない。教職員の勤務時間については、以前特定の教員に超過が見られるが、昨年度に比べて減少傾向にある。また、年休取得も、十分であるとは言えないが、ある程度の取得はできている。
自己評価
分析（成果と課題）
本務者の少ない小規模園において、本務者に仕事が偏ってしまうことを避けることが難しいという課題は依然として残る。年休取得については、通常保育期間での取得が難しく夏休みに取得が偏る傾向があり、原則夏休みに勤務がない職種の職員の取得確保と通常保育を安全に実施する勤務体制とのバランスが難しいという点は改善できていない。
分析を踏まえた取組の改善
今年度、非常勤講師が１名増加したことで、加配教員がおらず担任（もしくは預かり保育担当教員）が一人で対応しなければならない時間が無くなり、数字にこそ表れてはこないが、教員の大きな負担軽減につながっている。少し余裕のある人的配置を生かし、連携を密にしながら保育を進めていく。
（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・会議や職員朝礼の実施状況。 ・教職員の勤務時間及び年休取得状況。 ・前年度との比較検討。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・生産性と心を育てることの両立は難しいと思うが、まずは、教職員の心身の維持を優先することを考えていくようにすると良いと思う。 ・教育の充実を考えると、会議や職員間の意思疎通は大切であり悩ましい問題だと感じるが、会議の縮小など今後も工夫していくことが大事である。 ・早く帰宅できるようにする、遠慮なく休みを取るなどの意識をもつことも大切である。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策